巻頭言

# 「模擬授業の会」のこと

別府大学教職課程委員会
委員長　今井　航
（文学部教職課程）

いまから14年前のことである。当時の史学科の学生３名と文化財学科の学生２名が僕の研究室を訪ねてきたのが始まりであった。かれらは４年生で、その年の夏前に教育実習を終えたばかりであった。みな将来は教師になることを目標としていた。７月には教員採用選考試験を受験し、卒業までの残された期間に模擬授業を行っていきたいと言う。別府大学に赴任してから１年も経たない新任の僕に相談に来たのである。

本学の教職課程を履修する学生に本気で教師を目指している学生がいるのか。かれらとの出会いは、本気で教師を目指している学生がいることを気づかせてくれたし、本気で教員養成に取り組んでいかなければならないと決意させてくれた。

有志だけが集って不定期に取り組むよりも、定期的に取り組んでいける会にしていこうと思い、その組織化を図った。模擬授業を行うことで授業実践力を向上させていこう。教育実習を控えている後輩に授業実践の機会を提供して、お互いに学んでいこう。「模擬授業の会」は、かれら５名が当初から描いていた思いが形となったものであった。そこに、教員採用選考試験の受験対策の意図は、まったく無かったと言ってよい。

「模擬授業の会」は、平成19年度の後学期に船出した。石田隆裕くん（平成19年度史学科卒業）を中心とした５名が第１期のメンバーとなり、計９時間の模擬授業が行われた。ここに自主的に参加して次年度の教育実習に備えていた学生が数名いたが、なかでも毎回のように顔を出していた中園憲右くん（平成20年度史学科卒業）が平成20年度の第２期の代表となり、同期は６名で構成され、計23時間の模擬授業を行った。文学部を中心に学科横断的に組織されるようになったのは、この第２期からであった。

平成21年度に結成された第３期のメンバーは、第２期のメンバーが卒業の前に挙げてくれた候補者を教職課程の教員が面談することで選出された。あたらしいメンバーの選出方法は、この時に確立された。この方法は、平成28年度の第10期まで、ずっと続いた。

第３期は７名で構成され、計54時間の模擬授業を行った。平成22年度の第４期ともなると、メンバーは増えて11名となり、第４期は、なんと計74時間の模擬授業を行った。

「模擬授業の会」は、４年前の2017（平成29）年３月までの10年間で、第１～10期まで毎年のように結成されていた。振り返ってみると、計454時間の模擬授業が行われたことが判る。メンバーからは、中学校や高等学校の教員のみならず小学校や特別支援学校の教員も輩出されている。

いまは、「教職実践演習」の導入や、教職課程コアカリキュラムの活用が求められた近年の教員養成改革に応じた正規の教育活動に専念し、これを進めるべく、本学における教員養成の独自の課外活動として位置づけられてきた「模擬授業の会」は休止している。

この会のことは、『教職への道』No.30（2010）からNo.37（2017）までの各号において、活動報告が残されている。